第34回有瀬図書館ギャラリー展
—神戸市埋蔵文化財センター出張展示—

神戸学院大学有瀬図書館
展示会通信第37号
2015年11月25日発行

Meridian

博物館
実習Ⅱ

古代の
アクセサリー展

器の昔と今

2015.11.7（土）～12.5（土）
開催場所：神戸学院大学有瀬図書館
本館2階　エントランス展示コーナー

＊開催時間や開催期間は変更になることがあります。図書館HP、掲示にてご確認のうえご来館ください。

A ‘器’の昔と今 ―作り方の移り変わり―

私たちの生活の中で、「食」は重要な役割を持っています。そして「食」の文化と切ってもきれない、「食」の歴史とともに発展してきたものが「食器」です。
この日本では、「食器」には「椀」「杯」「皿」とさまざまな形があります。その中でも「皿」は、古墳時代から一般的に使用されるようになりました。以後も奈良・平安時代、江戸時代、現代と時代の移り変わりと人々の需要が「皿」にさまざまな変化を与えていきました。
本展では、「食器」、特に「皿」に焦点をあて、その製造方法の変遷を時代の流れに沿って詳しく紹介します。

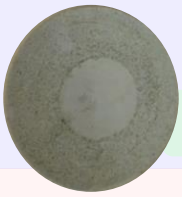
古墳時代

土師器
約600℃の低温で藻焼される。

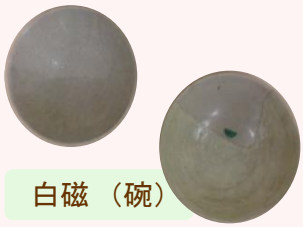
須恵器
丘陵に窯を作り、下から上に空気が登る「登り窯」を使い、1000℃以上の高温で焼かれる。

奈良・平安時代

瓦器 （碗）



灰釉陶器 （皿）



白磁 （碗）

鎌倉時代

江戸時代

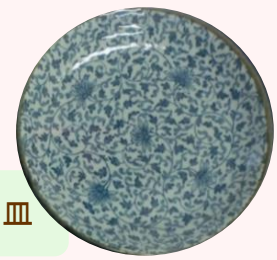
磁器 皿
（青緑釉皿）

磁器 碗（色絵）

磁器 碗

その他、身分による器の違いや、陶器と磁器の比較、染付と「くらわんか碗」などたくさんご紹介しています。

近現代



磁器 皿

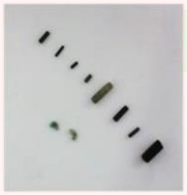
A班

名村知也・川村克希・中里一貴
奥村美紀・福井椋子・朱美紗子
樋口愛・保智加奈子・中野早有心
瀬島貴史・亀山舞子

今回の展示に際しては、神戸市埋蔵文化財センターから資料の提供と展示指導をいただきました。

B 古代のアクセサリー展

私たち人間は、古くからまが玉、菅玉、ガラス玉など、さまざまな装身具を身につけてきました。
それらの装身具にはアクセサリーとして身につけられたものだけではなく、祭事に用いられたと考えられているものもあります。
現代の日本ではアクセサリーや太極図として、まが玉がよく見られます。この展示では、まが玉に注目し、弥生時代と古墳時代のまが玉の特徴、そして、現代でのまが玉と私たちの関わり方を紹介します。


菅玉

ガラス玉

＊弥生時代＊
弥生時代からは、まが玉と菅玉の
組み合わせが首飾りに多く見られます。

小玉

菅玉

まが玉
ガラス小玉
菅玉

匂玉

＊古墳時代＊
古墳時代のまが玉には
頭と尾が密着するものなど、
異形のまが玉がありました。

子持ち匂玉
有孔円板
匂玉臼玉

現代の
まが玉の作り方

①

②

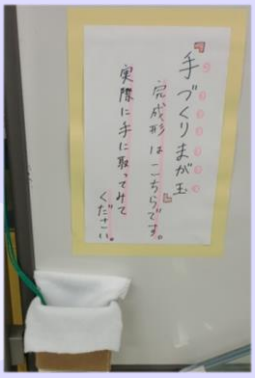
③

④

⑤

臼玉

＊現代のまが玉＊
現代では、まが玉は
アクセサリーやお守りとし
て使われています。

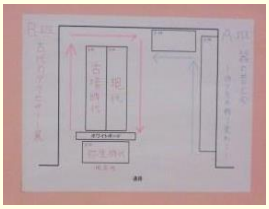


まが玉の完成形を実際に
手に取って見ていただく
ことができます。

B班

藤原由依・門脇実香・井垣智敬
堀岡春香・徳永康介・出野維
勝丸貴大・小林千穂
後藤田幸奈・高吉沙季

準備中の様子



博物館実習×図書館

今回の展示は本学の博物館学芸員課程必修科目「博物館実習Ⅱ」を履修する学生たちの企画・制作によるものです。A班・B班ふたつのグループに分かれ、図書館展示スペースを利用した企画の立案から展示まで、すべて学生主体で行いました。
人文学部前畑政善教授のご指導のもと、『神戸市埋蔵文化財センター』の全面的なご協力を得て完成まで至りました。
今回のテーマはA班が『‘器’の昔と今ー作り方の移り変わりー』、B班は『古代のアクセサリー展』です。どちらも古代の人々の生活に密着した内容となっています。
皆様も展示を通して古代の人々の生活を感じてみてください。

編集後記

今回のギャラリー展では、企画から展示まで学生が行いました。いつもの展示とは配置も違い、より印象的な展示になったことと思います。
A班・B班ともに素敵な仕上がりとなっていますので、ぜひご覧ください。

展示風景

神戸学院大学図書館　展示会通信　MERIDIAN　第37号
2015年11月25日発行
発行・編集：神戸学院大学　有瀬図書館
〒651-2180　神戸市西区伊川谷町有瀬518
TEL：078(974)4584（直通）E-mail:pub-lib@j.kobegakuin.ac.jp
ホームページURL: http://opac.kobegakuin.ac.jp/